

【資料】第1回芦屋市無電柱化推進計画策定委員会では出された意見について

No.	出された意見	意見に対する対応や考え方
1 対象路線の決定		
1-1	<p>都市計画道路の整備を進めるのではなく、本来やるべき路線を明らかにしていくべきではないか。</p> <p>本来やるべき細街路を見落としてしまうことになりかねない。</p>	<p>都市計画道路に限らず、全ての市道を対象に、3つの方針（安全・安心な道路空間の構築、美しい景観の形成、にぎわいの創出）に該当する路線を優先路線とし、優先順位を設定します。</p> <p>優先順位の設定にあたっては、指標に基づき路線ごとに評価し、評価点の高い路線を優先的に整備します。</p>
2 細街路における無電柱化		
2-1	<p>たくさんある細街路をどうしていくのが課題。</p> <p>住宅都市として住民要望による無電柱化が進んでいくと良い。</p> <p>どこかの地域に手を挙げていただいて、モデル的にでも住宅地の無電柱化を進めてほしい。</p>	<p>無電柱化による効果を目に見える形にするためにも、地域・関連事業者の協力を得ながら進めたいと考えています。</p> <p>実施にあたっては、実現可能かつ低コストな手法を選んで実施します。</p> <p>細街路における無電柱化は、地上機器の設置場所など、地域の協力が必要となります。また、無電柱化の効果を発揮するためにも、連続した整備が必要と考えています。</p> <p>細街路での実施にあたっては、下記の条件に該当する地区から優先的に実施したいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域が無電柱化に積極的 ② 地上機器の設置場所の調整が円滑に進む ③ 対象面積 1ha程度の面整備（2～3街区程度） ④ 無電柱化の連続性が期待できる
3 無電柱化の手法		
3-1	<p>歩道幅員 2.5メートル未満の道路においてはできないと断言するのか。</p>	<p>従来方式での実施に関しては、一般的に2.5m以上の歩道幅員が必要とされています。しかし、柱上機器など他の方法を活用した、2.5m未満での整備実績も報告されています。</p> <p>実施にあたっては、地域・関連事業者との協議・検討を経て、実現可能かつ低コストな手法を選んで実施します。</p>
4 電線共同溝の費用負担		
4-1	<p>費用負担の図の意味が読み取りにくい。</p>	<p>芦屋市が管理する道路において、電線共同溝方式で地中化を図った際の、施工区分・費用区分を示すように改めました。</p>

5 無電柱化の進め方		
5-1	全体のロードマップ・タイムスケジュールを示して欲しい。	本計画では、無電柱化の目的・目標・進め方を明らかにします。 特に目標では、短期・中期的に整備を図る路線を明らかにすることで、円滑な事業推進につながるものとします。
6 地中化以外の無電柱化（軒下配線・裏配線）		
6-1	無電柱化のペースアップを考えると、地中化以外の方法も採用の余地があるのでは。	地域からの要望により早期に無電柱化を図る必要がある路線に対しては、地中化以外による無電柱化の実施について検討します。
7 地上機器の設置に係るスペース		
7-1	地上機器が必要な理由は。	【関西電力】 電力の安全・安定供給のため必要となります。 また、有事の際、速やかに電力の切り替え、切り離し等の作業が必要となるため、地上に設置しています。 【J-COM】 CATV 機器への電源供給のために必要となります。
7-2	機器を地上に置く根拠は何か。 地上機器を地下に設置する場合の条件は。	【関西電力】 技術的かつ物理的な課題から、地上機器の地下への設置は考えていません。 技術的課題：絶縁性能、防水性能、メンテナンス性 物理的課題：地下空間の確保 【J-COM】 CATV 機器が、防水性能を有していないため、地下への設置は考えていません。
7-3	地上機器はどのような大きさなのか。	【関西電力】 ・幅 120cm×奥行き 50cm×高さ 90cm 【J-COM】 ・南芦屋浜で占有している地上機器は以下のとおりです。 (収納機器により大きさが異なる) 1) 幅 110 cm×奥行き 50 cm×高さ 90・120・150 cm 2) 幅 110 cm×奥行き 35 cm×高さ 60・120・150 cm 3) 幅 120 cm×奥行き 30 cm×高さ 65 cm

8 コスト縮減・財源確保		
8-1	<p>コストを減らし、財源を増やす方法はあるのか。</p> <p>優先順位をつけるにあたり、コストを考慮していく必要がある。具体的な手法は検討されたのか。</p>	<p>コストを減らすためにも、実施にあたっては設計段階で従来手法と低コスト手法を比較し、地域・関連事業者との協議・検討を経て、実現可能かつ低コストな手法を選んで実施します。</p> <p>財源に関しては、基金を設置し、無電柱化に推進に活用する方法を検討します。</p>
9 市民への説明		
9-1	<p>市民の意見を聴く機会としてパブコメがあるが、それよりも前に機会を設ける考えはあるのか。</p>	<p>素案作成後になりますが、パブコメ期間中に、市内複数箇所にて説明会を実施し、推進計画の内容をご説明する機会を設けます。</p> <p>市民から意見を上げやすくしたいと考えています。</p>
10 災害想定		
10-1	<p>津波による浸水想定エリアにおける影響はあるのか。(※)</p>	<p>【関西電力】</p> <p>地上機器の水没等により、停電が発生する可能性があります。その際は、復旧が長期化すると考えています。</p> <p>【NTT・ケイオプティコム】</p> <p>影響ありません。</p> <p>【J-COM】</p> <p>地上機器の水没により通電機器が破損した場合は、復旧に時間を要します。</p>
10-2	<p>地震や津波など、地中化施設に何かトラブルが発生した際の対応方法は、どうなるのか。(※)</p>	<p>被害箇所を特定し、復旧作業を行います。</p> <p>被害箇所の特定に時間を要する場合、また、復旧作業に時間を要する場合は、仮電柱等の設置により、一時的に上空から供給します。</p>
10-3	<p>電柱の強度を向上させることで、地震でも倒れないように工夫できないのか。</p> <p>そうすれば、無電柱化を図る必要はないのでは。(※)</p>	<p>地震・台風による電柱倒壊等の被害の多くは、家屋等が倒れ、電線・電柱も押し倒すことで、道路の通行が困難になっています。</p> <p>これらの事例からも、電柱の強度を向上させることが、被害の抑制につながる訳ではないと思われます。</p> <p>電柱が倒れない工夫だけでは、景観面や安全面での課題は解消されませんので、無電柱化を進める必要があります。</p>

11 引込線の撤去		
11-1	<p>引込契約を解除した際、上空引込線が撤去されなかった。</p> <p>不要な電線を残すことも、景観を悪くしている一因ではないのか。(※)</p>	<p>【関西電力】</p> <p>原則、敷地内にある引込線・引込設備は撤去することになっています。</p> <p>【NTT】</p> <p>上空：架空線の垂れ下がり等が事故を招く恐れがあるため、速やかに撤去しています。</p> <p>地下：お客様が撤去希望または建物解体の場合は撤去します。</p> <p>【J-COM】</p> <p>お客様が撤去希望の場合は撤去します。</p> <p>【ケイオプティコム】</p> <p>お客様が撤去希望の場合は撤去します。</p> <p>【芦屋市】</p> <p>不要な設備は撤去するよう、電線管理者に求めています。</p>
12 事例集の取りまとめ		
12-1	<p>地下から引き込む際、敷地内を掘る工事が必要と言われている。どのような工事になるのか。</p> <p>事例集を取りまとめて、わかりやすくしてはどうか。</p>	<p>既存建物への引込方法によって、必要な工事内容が変わってきます。</p> <p>今後、事例集を取りまとめて、市民への説明の際に、活用したいと考えています。</p>
13 その他		
13-1	<p>無電柱化には多くの費用が必要となる。もっと他に予算を割く必要のある事業があるのではないのか。(※)</p>	<p>どの事業も芦屋市にとって重要な施策です。各施策の必要性を確認し、必要な予算を配分しています。</p> <p>無電柱化は、都市防災機能の強化、通行空間の安全性・快適性の確保、良好な都市景観の形成を目的としており、住宅都市としての魅力を高めるために必要な施策です。</p>

※印：委員会後に寄せられた意見